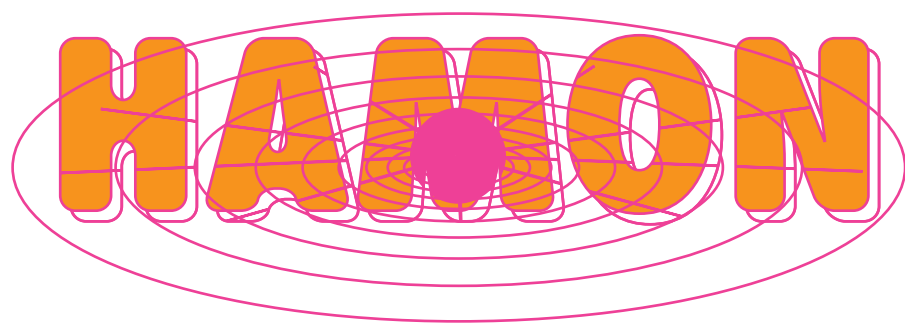




波紋 は文化財情報誌！
歴史・文化・動植物など
身近な話題を

今、あなたのお手もとに！

Vol.16(2012-2) 板倉町教育委員会



(校歌字 川野辺 喜代子様)

旧伊奈良小学校から旧文化財資料館まで

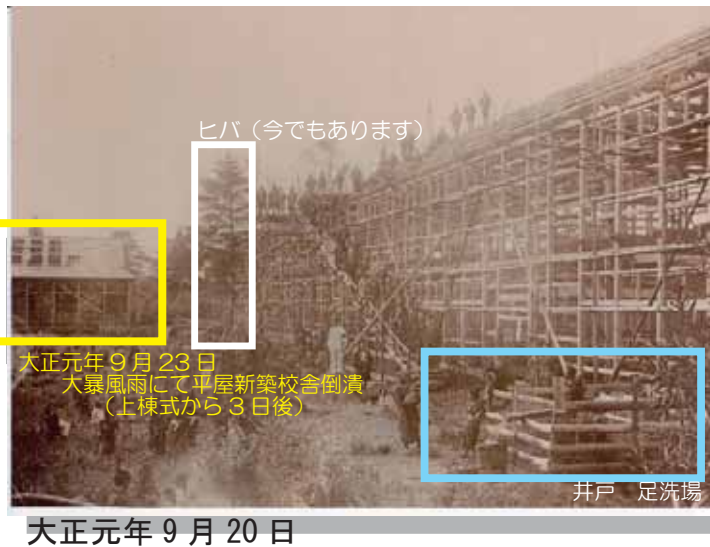
ありがとう さようなら



沿革と 思い出の落書き

旧伊奈良小学校沿革

明治 23 年 4 月	板倉初谷良尋常小学校を合併し、伊奈良尋常小学校を板倉村に設置
明治 42 年 4 月	伊奈良尋常高等小学校
明治 43 年 4 月	児童数 600 人超えのため仮校舎を観福寺に増設。宝福寺も仮校舎となる
大正元年 9 月 20 日	新築校舎上棟式（二階建て）
大正元年 9 月 23 日	大暴風雨にて平屋新築校舎倒潰
大正元年 12 月 5 日	平屋校舎改築校舎上棟式挙行
大正 2 年 3 月 20 日	新築校舎竣工
昭和 3 年	落成式



昭和 4 年	増築校舎落成式を挙行（2 棟）
	・ 旧二階建て校舎と並び間口 11 間半の二階建て ・ 旧平屋建てを取り壊しその西方に敷地拡張し建設

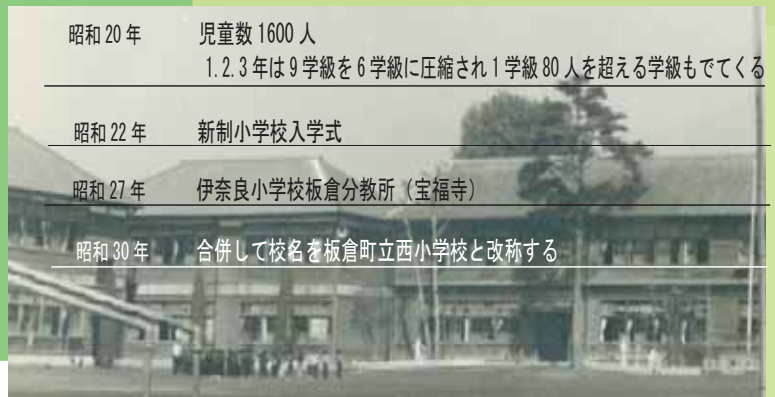
昭和 16 年 4 月 1 日	国民学校と改称
--------------------	---------

昭和 20 年	児童数 1600 人 1.2.3 年は 9 学級を 6 学級に圧縮され 1 学級 80 人を超える学級もでてくる
---------	---

昭和 22 年	新制小学校入学式
---------	----------

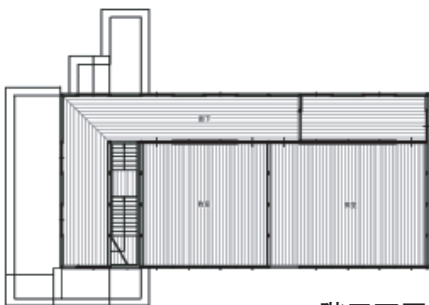
昭和 27 年	伊奈良小学校板倉分教所（宝福寺）
---------	------------------

昭和 30 年	合併して校名を板倉町立西小学校と改称する
---------	----------------------

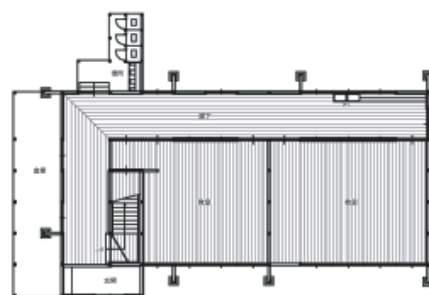


旧伊奈良村立尋常高等小学校増築校舎実測図面

現状実測図面



1 階平面図



2 階平面図

0m 10m



南側立面図



東側立面図



北側立面図



西側立面図

旧伊奈良村立尋常高等小学校増築校舎部分は、開口 11 間半、奥行き 5 間半の二階建ての建物で 1 階と 2 階に 2 つの教室があります。当時の写真から判断されるように 2 階部分には渡り廊下があったようで現在でも東側の壁にはその跡がみられます。

外壁は下見板張りですが、中ほどの現在サイディングで張られた部分は建設当時は軒下まわりと同じように漆喰が塗られていた可能性があります。東面以外にはバットレス（控壁）と呼ばれる補強壁がついており、頑丈につくられたことがわかります。

内部には元々 4 つの部屋が設けられていたと思われます。現在、西側に階段がありますが、これは後の改修工事の際につけられたもののようです。内部の壁面は現在はプリント合板とペンキによる仕上げがされていますが建設当時は、腰板と漆喰壁であったことがわかりました。建具は新しいようですが古いガラスが用いられているものもあります。

最後に、屋根組みはトラス構造で大きな教室の上部を支えるために頑丈な部材を用いてつくられたことがわかります。尚、この校舎の文献調査から昭和 4 年 4 月に完成されたと考えられます。



東側の出入り口上部に改修時切り離した形跡がみられます。南北の壁にはバットレス（突き出して支える補強用の壁）が目立ちます。



現在の基礎はコンクリートの上にモルタル仕上げがされており、その上に土台が乗ります。一方でバットレス（控壁）の基礎にはモルタルが塗られていません。



内部の建具には”歪み”のある戦前のガラスが残っています。

敷居のある出入り口は当初のものであると思われます。



実測、作成：前橋工科大学 工学部建築学科
星研究室 + 建築保存研究部 (RENO)



現在の階段は改修時に取り付けられたようです。

蘇る思い出 ①

皆様より応募いただきました思い出を6ページにわたり掲載いたします。

たどる思い出

伊奈良

尋常高等小学校

伊奈良村立国民学校

何となつかしいひびき

唯一のこされた資料館

解体により消えてゆく

あの頃の面影

ひとかけらもなくなる

なんと 淋しいことよね

思い出したまゝを。

校門のすぐ脇に建てられた

立派な奉安殿

時代と生きた

人にだけわかる建ても

校庭を囲む南側は

小高く盛りあげた土に

ととのった玉ひばが植えられ

東にはからたちの垣根

部外からの侵入を

守ってくれたのか？



懐かしの木造校舎よ ありがとう

私 は昭和19年7月に伊奈良村大字粕谷に生まれました。

そして昭和27年4月旧伊奈良小学校に入学いたしました。

瓦屋根の木造二階建て校舎でした。

中央校舎は東西に長く中央校舎に直角に増築した西校舎がありました。

中央校舎の玄関右手に「二宮金次郎」の石像があり近くに赤松の大木が

そして校庭の中央には「青桐」の大木が生い茂り、体操の授業

での集合場所や休憩に良く使ったものでした。

また校庭南東角には相当高い「銀杏」の木があったのを覚えています。

今から5年ほど前に埋蔵文化財関連の仕事で板倉町旧文化財資料館を

訪問した際懐かしの旧伊奈良小学校校舎に会いました。

板倉町旧文化財資料館の部屋は私が小学2年生の時に勉強した教室だったのです。

50年以上経過した木造の教室や廊下は懐かしさが

が染み込んでいて今すぐに

「雑巾がけ」でもしたくなるような気分でした。

教室自体が残っていることが感激でした。

そして平成24年6月の上毛新聞で「取り壊し」

が報道されました。



記事を切り抜き大切にもっています。そしてもう一度、校舎を観たい気持ちになり、平成24年7月7日、車ではありますが生家から小学校の通学路を通って旧伊奈良小学校校舎（板倉町旧文化財資料館）を観て参りました。そして校舎中央の「青桐」はありませんでしたが、校庭南東角には現在でも相当高い「銀杏」の木が残っていました。県道から入るには御影石の「校門」があり大正2年の開校だったようです。

そして県道南側には「三木や文具店」や「根本自転車店」（今は自動車販売店）がそのままの場所にあり、いっとき懐かしい思い出に浸りました。

旧伊奈良村に生まれ、故郷の歴史が消えることは寂しいことですが自分を教育してくれた施設に「感謝」の気持ちを何か書き残すことも良いことと思い、作文を書いてみました。

鳥羽 義昭様

鐘の響き

玄関脇に吊された鐘
紐をたたくようにして
始業を知らせてくれた小使いさん
一目散で教室へもどったこと
二宮尊徳の像が
それ今日もがんばれよと
鐘を鳴らしてくれた
やさしい笑顔の小使いさん
遠い星の世界で笑ってるだろうね

皇大神宮

奉 安殿は、各学校に造られたが、

皇大神宮があった学校は数少なかったのではなからうか。

昭和十四年研究大会が開催されたのを記念して、農場に建設されたのである。

担任で前橋からお出でになった

N先生を中心に入学記念写真を撮った。

皇大神宮のそれ以外の記憶はないが

写真は今も手元に残っている。

それ以外で、一年生での記憶にあるものは、

研究授業で校庭の南の方にあった青桐の樹から

昆虫を採取したことである。

始めのころは昆虫の観察もしていたが、

途中から夢中になってカブトやクワガタを捕まえていた。

その他、校庭での樹木について想い出されるのは桜の木である。

これは二十年後、ある講習会に参加したとき

睡眠術をかけられたことがあった。

そのとき「小学校で始めて描いた絵のことを思い出して描いてごらん」と

言われ描いたのは桜の木であった。

自分の記憶にはまるっきりなかったが、

そう言われれば桜の絵を描いたこともあったと、

その後なにかの折りに想い出している。



兵士を送る

たたかいのはげしくなった頃
校庭から何人もの
出征兵士を送ったつけ

勇壮な鼓笛隊と

心にのこるひとつ

涙も見せず出て行ったよね

大好きな先生を

村はづれまで送り

別れたあの日

かなしかったけど

みんなみんな偉かったね

立派だったな



荻野 次雄様

あきざり

校庭の中ほどに

大きな青桐があったよね

うんどうのあとの汗を洗め

憩いの緑陰で

先生と語り、あしたの

活力を養ったつけ



蘇る思い出 ③

旧文化財資料館

資料館が出来たころ、なにが展示してあるのだろうと思い、訪れたことがある。

部屋に入る前から、ある種の興奮が湧いてきた。

それは、そこが国民学校の2年生の時の教室だったからである。

そこで学んだ掛け算九九の事が胸に浮かび、

それと同時に

先日亡くなった担任のS先生の元気だった時のことも思い出された。

西校舎

三年生からは、西校舎で学んだ。

その中で強烈に記憶に残っているのは、昭和二十年の八月のことである。

十五日過ぎ、始めて登校したとき、

担任の先生が十五日の感想を全員に聞いた。

その時、今は亡きS君が

「日本は勝つ勝つと言っていたのになぜ負けたんですか」と質問をした。

その時の先生の困りはてた顔は未だ脳裏を離れられない。

折りたたみ式の間仕切り教室

西校舎の一階は隣りの教室との境が壁ではなく、折りたたみ式の板戸であった。

学芸会（演劇・合唱・舞踊などの発表会）の時現在の講堂のように

会場を広く使用するためのものであった。

そのような簡易の間仕切りのため、隣の授業の声は聞こえてきた。

中学校時代の校舎

昭和二十二年新制中学校が発足した。

校舎は建設されず、西校舎を間借りしていた。

その校舎で一番思い出に残っているのは、音楽教室である。

場所は、南向き校舎と東向き校舎とのつなぎ目の

廊下を使用した教室である。

合わせ目目の片方はベニヤかなにかで塞いだだけの教室で、狭いところに押し込められての授業だった。

当時、その教室でみんなで蜚声を張り上げて歌ったことがある。

隣の小学校の教室はさぞかしうるさかったろうと後になって思った。



橋本 とく子様

今から 42 年前の昭和 45 年 12 月 20 日に社教センターで結婚式の披露宴を行いました。青年団活動で知り合いましたので仲間の方々が会員制の祝う会を開いて下さいました。

皆さんには準備から当日と大変な思いをしながら思い出に残る会を作り上げていただきました。

社教センターは私達の忘れる事のない人生のスタートの場所・・・。

私は昭和 8 年伊奈良尋常小学校に入学しました。

当時、学校には玄関に二ノ宮尊徳の銅像と毎朝、国旗を上げる太い旗竿がありました。

思へば春の西風のものすごくつよい日でした。先生から

「今日は風がつよいから休時間、外に出ないやうに」と各教室に

話がきつくあったのです。所がたまたま鞠つきをしていた三年生の

女の子の鞠が庭に転がり出てしまひ、それを追いかけて庭に

出た所、旗竿が倒れてその下敷きになってしまったのです。

丁度、その時私は窓から外を見ており、かけ出した女の子が自分の姉だと思ひ外に飛び出して行き現場の姿を目のあたりに見ました。このとき、校長の越沢仁十郎先生が夢中で走ってきて旗竿を取り除けグッタリした遠藤さんをかかえて必死に玄関に

かけ込んだ姿は、何十年経った今でも頭から離れません。又、嬉しいこと・悲しいこと、そして運動会・学芸会或いは教室の隅に立たされたこと、色々なドラマのあった学校でした。

思い出の一杯つまった学校です。

本当に長い間ご苦労様でした。

川野辺 金吾様

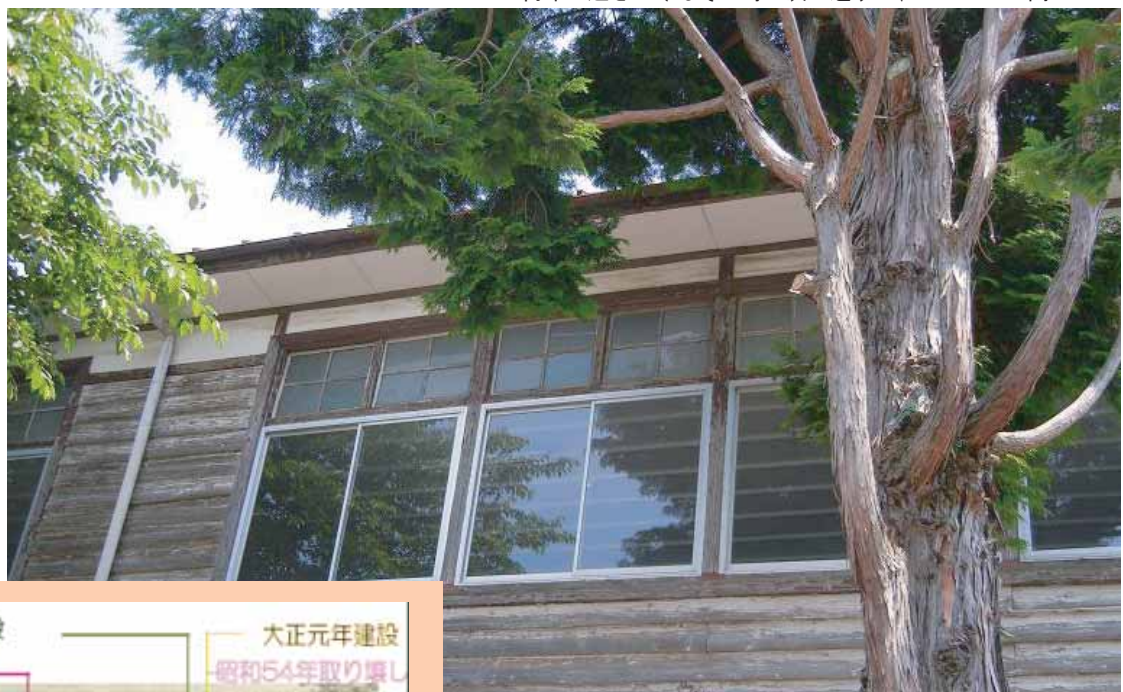
松の木
西昇降口のところに
二階まで届く大きな松
私達を見おろしてたね
登下校の際おはよう
ほら氣をつけてお帰りと
しつかと見守ってくれた松
叱られたこと賞められたこと
悲喜こもごもを
知りつくした松の木



蘇る思い出 ⑤

昭和24年 大箇野中学校を卒業した、わたくしは

この校舎（資料館）に直接思い出があるわけではない。当時は、行政の区切りが東部邑楽（郡）の大島・赤羽・千江田・大箇野・伊奈良・海老瀬・西谷田と7つの村を7か村と呼んだ。伊奈良村は村も大きく、地理的にも中心にあり、大概の行事はここで行われた。行政のことは中学生で関心がなかったので記憶がないのだが……。特に運動会は伊奈良中学校に7か村の中学生が徒歩で集まり、選手は競技に一般は応援にと広い校庭も生徒で埋め尽くし賑わった。当時の記憶を辿ると、校舎の北側に我が校舎（大箇野中学校）とおなじように2階建て校舎があった。その事は別に珍しくはないが、その校舎とほぼ直角に校庭の西に南北の校舎があり、子供心に変わった風景だったのかおぼろげな印象がある。



その西側の校舎（資料館）が、今、壊そうとする建物のような気がしてならない。もう一つ昭和24年、東部7か村の中学3年生が、1校2、3名選抜され伊奈良中で一泊二日の研修が行われた。泊まりは雷電神社の社務所であった。

当時、終戦間もない食糧難時代で国中こぞって食糧生産が叫ばれた時代で、所謂食糧を生産する授業であった。農学校の先生や農業に関する役所から出向いた人たちが教壇にたって、授業が行われた。ただ授業中、暖房もなく、いやに寒くオーバーコートを着て授業を受けたことを覚えている。

60何年か過ぎた今もその時の友に遭うと、たった2日間



の教室の友だが体のどこか当時のDNA（？）があるのか何となく親しみがわいてくる。その、親しみのある思い出の教室がなくなることは、時代の移りで仕方ないにしても記憶が少しずつ消えてなくなることは寂しいかぎりである。年寄りの冷や水。

桑原 くわばら

記念撮影の写真もあったが、みつからない。

小野田 填様

青 空教室

新制度になったが、とにかく教室が足りなかった。午前と午後の二部授業もあった。それも青空教室だった。西校舎の南のはずれにトイレがあった。その隣りに大きなモミジの木があり、そこが教室の中心部になった。周囲の囲いは全然なく、校庭を通る人の姿はよく見え、運動しているものも見え、その上、香ばしい匂いもしてきて落ち着いて授業を受けられなかった。そんな境遇から解放されたのは待望の新校舎が昭和二十五年に完成し使用出来るようになった時からである。一年上の先輩は関係者の温情で一ヶ月使用して卒業していった。まるまる一年間使用したのは我々の学年からであった。

昭和何年頃だったか西校舎の上棟式だったと思う林立する柱のてっぺんに幟りがはためき法被をつけた職人さんが撒く祝餅をよろこんで拾ったことを思い出す。そして昭和6年4月一年生として入学した時は校舎全体が未だ新しかった。校舎は南並に二階建てで8教室並の方で東へまがり4教室あり私達の担任は植竹宥永先生だった。あの先生、この先生、仲良しの同級生みんなよい思い出があり懐かしい。たしか五年生位まで西校舎で勉強して六年生から古い本校舎へ移ったと思う。楽しかったのは学会会で4教室のしきりを取り払い教壇を積みかさねて舞台をつくり歌や劇を観賞した。その校舎も終戦暫くして一部取り壊され残った最後の校舎も今回壊されるのは淋しいがこれも仕方がない。

長い間ご苦労様でした ありがとう

荻野 次雄様

関田 武次様

思い出をたたむ
がんばった文化財資料館
今ここに想いをこめて
ありがとう
未来に向かって
新しい生命を
はぐくもう



昭和 58 年改修工事

(は川野辺 喜代子様の詩です)

思い出の最終章

平成 24 年 7 月 11 日～ 14 日の 4 日間行われた
「お別れ会」のようすを写真で綴りました。



ひとこと

4 日間行われた「お別れ会」には、大勢の方に御来館いただき、心より御礼申し上げます。
心なしか「旧文化財資料館」も喜んでいるような気がいたしました。
板倉町の子どもたちの学舎として、偉大な役目を果たし
数え切れない笑顔と、書ききれない思い出を多くの人たちに残し、その姿を消すこととなりました。
さようならの言葉と共にありがとうの気持ちを込めて今お別れします。

(杉)